教科（ 芸 術 ） 科目（ 美 術 Ⅰ ） 単位数（ 2 ）

類型（ 共通 ・ 文 ・ 理 ） 履修規定（ 必修 ・ 選択 ）

年間目標	教科書・副教材等
1 美術の幅広い創造活動を通して、表現や鑑賞の喜びを体験し、感性を高める。 2 発想・構想を心豊かにし、主題を生成して追求する力や創造的な技能を高める。 3 美術文化についての理解を深める。	教科書 「高校生の美術１」 日本文教出版

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
1学期	4	オリエンテーション （1）	・高校での学習方法を理解する。	・意欲的に授業に取り組むことができたか。【関心・意欲・態度】
		〈人物クロッキー〉（年間をとおして） 鉛筆デッサン （5）	・身近な題材に目を向け観察力と描写力を養う。	・対象をよく観察し、鉛筆の線や色、タッチを工夫して表現することができたか。【創造的な技能】
	5	平面構成「春夏秋冬」 (12)	・デザイン構成の基礎を学ぶ。 ・多様な表現方法を追求し、表現を具現化する技術を習得する。	・生活や社会を心豊かにするデザインについて考えることができたか。【鑑賞の能力】 ・様々なアイデアからよりよい制作ができたか。【発想や構想の能力】 ・技能を高め、身に付けることができたか。【創造的な技能】
	6	人権ポスター （4）	・発想・構想力を高める取組をする。 ・ポスターの目的を理解し、見る側の視点に立ってアイデアを練る。	○ 作品提出 ・他者への思いを形にし、制作の見通しを持って表現できたか。【創造的な技能】 ・主題に応じて、効果的な表現方法を創意工夫し表現できたか。【創造的な技能】
	7	生徒作品相互鑑賞 （2）	・作品について互いに批評し合い相互理解を深める。	○ 作品提出 ・他作品のよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取ることができたか。【鑑賞の能力】
2学期	8	作品鑑賞 （2）	・人権ポスターの完成作品を相互鑑賞する。	・他作品のよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取ることができたか。【鑑賞の能力】
	9	木炭クロッキー （6）	・木炭の特性を理解し、描画方法を学ぶ。	・陰影法を理解し、明暗、質感を意識した表現ができたか。【創造的な技能】
	10	油絵の表現 (18)	・描画材や用具の特性を理解する。 ・油絵具についての理解を深める。 ・主題を生成して、主題にあった表現についての構想を練る。 ・油絵具の特性を生かして表現方法を創意工夫する。	・形体、色彩、構成などを工夫し、構想を練ることができたか。【発想や構想の能力】 ・意欲的に制作に取り組み伸び伸びと制作することができたか。【関心・意欲・態度】 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して表現できたか。【創造的な技能】
	11		・絵の具の重なりを意識して、作品の完成度を高める。	○ 作品提出 ・絵具や用具の特性を理解して、知識を広げることができたか。【関心・意欲・態度】 ・油絵具の特性を理解し、主体的に制作に取り組めたか。【創造的な技能】
	12	生徒作品相互鑑賞 （2）	・作品について互いに批評し合い相互理解を深める。	○ 作品提出 ・他作品のよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取ることができたか。【鑑賞の能力】

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
3 学 期	1 2 3	調べ学習による鑑賞　（6） 時間軸をもった表現　（10） 生徒作品相互鑑賞　（2）	・教科書主体に地域、年代別に班活動を行う。 ・地元出身で世界的に活躍した作家について学ぶ。 ・絵本やアニメーションなど、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて理解を深める。 ・作品について互いに批評し合い１年間のまとめをする。	・主体的に鑑賞に取り組むことができたか。【関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】 ・表現方法を工夫し独創的な表現ができたか。【創造的な技能】 ○　作品提出 ・身の周りにある美術に目を向け、私たちの生活に欠かせない存在であることに気付き、考えを深めることができたか。【鑑賞の能力】
評価の方法		評価は、【関心・意欲・態度】【発想や構想の能力】【創造的な技能】【鑑賞の能力】の観点別評価（授業態度・取り組み方・基礎的な技能）と、各学期に完成された提出作品の評価を傾斜配分して、100 点法で算出する。学年末の成績は、１・２・３学期の成績を平均して、１年間の総合成績として 100 点法で算出する。		

○　美術Ⅰの学習法

１　基本的な心構え

表現では、絵画やデザインなどの制作をする。対象をよく観察して表現する単元と、感じたことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し表現する単元を設けている。新しい素材と出会い、創造的な技能を高め、表現する喜びや楽しさを味わいながら作品を丁寧に作り込んでほしい。

鑑賞では、「観察する力」と「印象を言葉にして伝え合う力」を重視して授業を構成している。自己理解を深めるとともに、他者との関わり方や物事に対峙するよりよい精神を学び取っていこう。そして、我が国及び諸外国の美術文化や作家、作品を学び、鑑賞の能力を伸ばしていこう。

２　学習の方法

⑴　表現について

ア　何より授業を大事にし、集中することが重要である。絵画やデザインなど、それぞれ体系的に学習できる計画を立てている。課題に興味関心を持ち、意欲的に取り組むことで、表現の幅は必ず広がっていく。よりレベルの高い表現力を身に付け、掘り下げた完成度の高い作品を目指していこう。

イ　表現では、自分と向き合うことを大事にしてほしい。自分と作品との関係性を深め、自分の世界を作り上げていこう。

ウ　新しい素材や描画材の特性、使い方、その技法をしっかりと学ぼう。そして、主題に合わせた表現ができるよう創意工夫をし、個性豊かな作品を作ろう。

エ　シラバスの内容に基づいて、普段から必要な資料や材料収集を積み重ねておくと、アイデアの源泉となり、発想・構想が豊かになる。生活の中で気になるものや美しい風景を撮影したり、季節の移り変わりに目を向けたりして、アンテナを張っておこう。

⑵　鑑賞について

ア　作品のまとめとして、相互鑑賞会を設けている。個性を尊重し、互いの作品について批評し合い、見方や感じ方の相違などを理解し、作品に対する理解を深めていこう。「印象を言葉にして伝え合う力」を高めるため、積極的に意見を発表し、鑑賞カードに考えを記入していこう。

イ　日本の美術文化を尊重し、そのよさや美しさを理解するとともに、日本及びアジアなど諸国の美術に対する知識・理解を深めていこう。そして、他者と意見を交換することにより、新しい価値などに気付き、感動できる機会を増やしていこう。